



上 学



No. 2 5月発行

令和8年度重点目標

文責 早川 大介【校長】

未来につなげる力の育成 ～ONE TEAMでつなぐ9年間の学びの教育～

カブトムシの飼育を通して

1～3年生の学級では、カブトムシの幼虫の飼育を始めました。子供たちはケースの中をのぞき込みながら、「どこにいるのかな」「早く動くところを見たいな」と興味津々です。しかし、幼虫たちはまだ土の中で生活しているため、普段はその姿を見ることができません。時折、土が少し盛り上がり、動いた跡が見えたりすると、「今、動いたかもしれない！」と嬉しそうな声が上がります。まだ姿が見えにくい幼虫ですが、子供たちはすでに大切な仲間として迎え入れているようです。「名前をつけたい」「ぼくがお世話をしたい」「土は乾いていないかな」など、飼育に前向きな声がたくさん聞かれます。目に見える変化が少ない時期だからこそ、子供たちは想像をふくらませながら、小さな命の存在を感じ取ろうとしているのかもしれないかもしれません。生き物を育てる活動には、多くの学びがあります。お世話を通して責任感や思いやりが育まれ、「生き物にとって何がよいのか」を考える経験にもつながります。「今日は元気かな」「苦しくないかな」と相手の立場を想像することもあるでしょう。そうした積み重ねが、子供たちの心の成長につながっていくのだと感じています。

特に、命あるものを育てる経験は、「命の大切さ」を学ぶ貴重な機会です。私たち人間も生き物も、みな同じように命を持って生きています。小さな幼虫であっても一つの命として大切に扱うこと。その姿勢は、友達との関わりや日々の生活にもつながっていきます。相手を思いやる心や優しく接しようとする気持ちは、このような体験の中から自然に育まれていくものです。

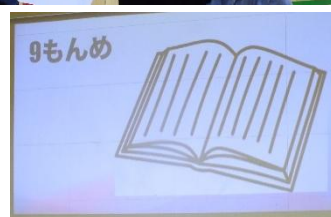
そして、カブトムシの飼育は、成虫になってからが本番です。現在は土の中で静かに育っている幼虫たちも、これから少しずつ成長し、やがて蛹（さなぎ）へと姿を変えていきます。蛹になる時期には「人工蛹室」を作り、成虫へと変化していく様子を子供たちに観察させたいと考えています。自然界では土の中で行われる変化を目の前で見ることができる貴重な機会です。幼虫だったものが少しずつ形を変え、成虫として羽化する姿には、生命の神秘と力強さがあります。子供たちはきっと、「生きる」ということの不思議さや尊さを心で感じ取ってくれることと思います。もちろん、生き物の飼育は楽しいことばかりではありません。気を配る必要がありますし、時には思うように育たないこともあります。しかし、そのような経験もまた、子供たちにとって大切な学びです。「なぜだろう」「どうしたらよいだろう」と考えながら向き合うことで、命を預かる責任について学んでいきます。

子供たちがこれからカブトムシの成長を見守る中で、驚いたり、喜んだり、時には心配したりしながら、多くのことを感じ取ってくれることを願っています。そして、生き物係の活動が、単なる飼育体験にとどまらず、友達と協力する心や相手を思いやる気持ち、自分より小さな命を大切にする優しさへとつながっていくことを期待しています。

1年生を迎える会

4月24日（金曜日）、児童生徒会が企画した「1年生を迎える会」を実施しました。6年生に手をつないでもらい入場した1年生はたくさんのお兄さんお姉さんに声をかけられ、それぞれのグループに分かれました。

その後、オノマトペゲームで楽しみ、最後には感謝の言葉を大きな声で伝えることができました。

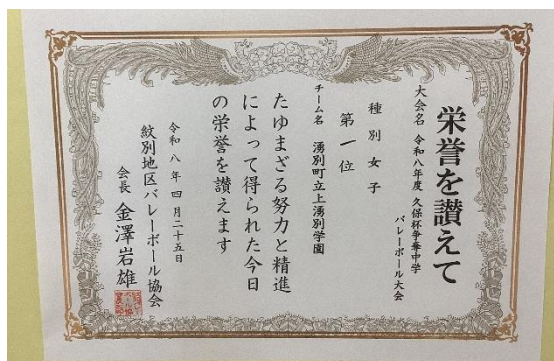


義務教育最後の大会に向けて

4月から5月にかけて部活動運動部の大会が行われています。バスケ部は管内リーグ戦、テニス部はヨネックス杯などの大会で試合勘を養っています。

バレー部は4月下旬紋別で行われた久保杯で優勝。野球部は5月上旬に行われた全日本大会で全道大会進出の権利を獲得しました。（全道大会：7月18日開幕）

各部活動9年生最後の大会に向け、頑張ってください。



大会ではありませんが、金管バンド、吹奏楽はチューリップフェアで素敵な演奏を披露してくれました。

